

平成28年度 地方創生加速化交付金事業評価シート

交付金事業名					総事業費	交付決定額	補助率				
「大隅はひとつ！」大隅広域観光推進事業 ～健やか半島おおすみプロジェクト～					2,987千円	2,565千円	85.9%				
事業の実施の背景と目的					事業内容						
大隅地域の魅力ある地域資源を活用した観光産業の付加価値を向上し、地域経済の活性化を図るための組織づくりが急務であることから、平成29年度以降に日本版DMO「大隅広域観光協会（仮称）」の設立を目指し官民一体となった取り組みを進め、将来的に地域の「稼ぐ力」を引きだす。 また、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりのかじ取り役としての役割を果たす民間主導の組織を目指す大隅広域観光協会準備会（仮称）を設立し、日本版DMO「大隅広域観光協会（仮称）」の設立に向けた具体的な協議を進めるとともに、地域内の機運醸成を図り、専門的人材の配置や広域観光戦略ビジョンの策定等、大隅地域（4市5町）が一体となった観光地域づくりを進め、地域活性化を図る。					日本版DMO「大隅広域観光協会（仮称）」設立に係る経費として以下の事業を実施 ・専門的人材（観光コーディネーター）の登用 ・K P I の設定に伴う調査事業 ・地域内機運醸成に係る研修会等の実施 ・地域内観光人材の育成に係る研修会等の実施 ・広域観光戦略ビジョンの企画立案と体験型メニューの企画販売 全体事業費31,146千円を4市5町で案分 肝付町分 2,565千円						
重要業績評価指標(KPI)		目標年月	目標値	実績値	達成状況	重要業績評価指標(KPI)		目標年月	目標値	実績値	達成状況
入込客数		平成29年3月	666万 5千人	607万 6千人	×	延べ宿泊者数		平成31年3月	49万 5千人	42万 3千人	—
肝付町地域創生戦略での位置づけ		基本目標			時代に合った地域づくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する						
		具体的施策			大隅の広域的な情報発信等の機能を担う活動拠点施設の設置並びにそれに向けた広域的な体制の整備						
担当課における評価					評価委員による意見						
日本版DMOの準備組織「おおすみ観光未来会議」に参画された民間団体が100団体を超え、大隅広域での取り組みに理解を得ている。 反面、広域での意見の擦り合わせが困難であり、今後事業を推進するうえでの課題となっている。 KPI未達成の原因としては平成28年4月以降の熊本地震の影響により、県外からの入込客数が減少しているためと考えられる。					各分野の法人・団体・行政の連携がかなり重要な課題である。 地元に進進地研修に来られる方も多く、宿泊する場合もあるので、積極的に呼び込んでほしい。						

平成28年度 地方創生加速化交付金事業評価シート

交付金事業名					総事業費	交付決定額	補助率				
みんなの力で宇宙へチャレンジ事業					36,264千円	36,264千円	100%				
事業の実施の背景と目的					事業内容						
肝付町は日本初のロケット発射場である内之浦宇宙空間観測所を有しており、本町の貴重な地域資源であるが近年ロケット打ち上げ回数の減少に伴い、観光客の減少、まちの活力の減退が問題となっている。 そのため、平成27年度に実施した「宇宙の町」肝付町のファンづくり事業実施業務委託」の成果をもとに、宇宙関連資源をめぐるツアーメニューの充実を図るとともに、肝付町の知名度を高めるためのプロモーション事業、宇宙関連産業の誘致、雇用の創出に向けた産学連携の体制づくりを行う					(1) きもつき宇宙協議会プロモーション事業 「宇宙の町」をPRするプロモーション動画の作成とイベントの実施 (2) 産学連携体制づくり事業 宇宙関連企業や大学、研究機関に対して、射場活用の可能性や民間ロケット打ち上げ等に関するアンケート調査及びヒアリング調査の実施とイベントの実施 (3) スペースサイエンスツアーの実施 宇宙を学び、宇宙開発に挑戦したい全国の中学・高校・大学生を対象にしたツアーを内之浦で実施 (4) 宇宙の町をPRするための観光ARアプリの企画・開発業務 360度映像を活用したコンテンツ（観光ARアプリ）の企画・開発						
重要業績評価指標(KPI)		目標年月	目標値	実績値	達成状況	重要業績評価指標(KPI)		目標年月	目標値	実績値	達成状況
町内観光入込客数		平成29年3月	40万人	31万人	×	大学や研究機関の施設数		平成29年3月	0件	0件	—
宇宙空間関連企業数		平成29年3月	0社	0社	—	銀河連邦制度サポーター及びパートナー国民登録者数		平成29年3月	1,000人 2団体	570人 1団体	×
肝付町地域創生戦略での位置づけ		基本目標			肝付町にしごとをつくり安心して働けるようにする						
					肝付町への新しい人の流れをつくる						
		具体的施策			宇宙関連産業誘致への取り組み						
					「宇宙の町」きもつきのファンづくり事業						
					ロケット打ち上げ時に訪問する大学や研究機関への施設の提供						
担当課における評価					評価委員による意見						
入込み客数を見込んでいたやぶさめ祭りが降雨のため来場者数が大幅に減少したことやロケット打ち上げ見学者見込み数が夜間打ち上げで平日であったため見込みより大幅に少なかった（20,000人⇒6,000人）。 このことで銀河連邦制度の周知が思うように進まず、入込み客数の目標値や国民登録者数の目標値に達することが出来なかった。 しかし、インターネット利用（ホームページ、フェイスブック）による周知に努めたことで県外の方の登録数の割合が多く、全国への肝付町の情報発信としては役に立った。また、アンケートによりロケット開発に興味があると回答した企業や大学があったことは、今後の宇宙政策に可能性が見込めた。					このような事業は単年度で成果がでるものではなく、継続的な実施も考慮すべきである。 JAXAとの協力、民間のロケット開発・大学の研究施設の連携はできているのか。 条件があれば企業などが肝付町に進出したいとあるが、どのような条件なのか、またその条件をクリアできるよう努めてほしい。 「第2のふるさと」となるよう中・高校生にも宇宙学など取り入れて地元の方のつながりを強化している。学校ととしても協力していきたい。						

平成28年度 地方創生加速化交付金事業評価シート

交付金事業名					総事業費	交付決定額	補助率		
肝付の光とエネルギーのコラボレーション創出事業					39,842千円	39,842千円	100%		
事業の実施の背景と目的					事業内容				
肝付町は、豊かな自然に恵まれ、利活用できる再生可能エネルギーを多く有している。このエネルギーを地域で利用し、ここで生まれた資金を活用する仕組みを可能にする電力会社を設立し、地域資源で地域が稼いでいく仕組みを構築し、目に見える地方創生を実現する。					(1) 新電力事業導入可能性について、電力の需要調査やマーケティング調査を実施 (2) 会社設立のための事業採算性、資金調達の計画、事業運営に係る計画書作成 (3) 新電力事業の広報、事業体制構築 (4) 電力使用を通して生活支援サービスが可能となるHEMS（ホームエネルギーマネジメントシステム）実証事業の実施				
重要業績評価指標(KPI)	目標年月	目標値	実績値	達成状況	重要業績評価指標(KPI)	目標年月	目標値	実績値	達成状況
地域電力事業による雇用者数	平成29年 3 月	1 人	3 人	○	移住者数	平成29年 3 月	20人	70	○
買い物に不便を感じている人の割合	平成29年 3 月	45.2%	－	×	スマートグリッドモデル地区の設置	平成29年 3 月	1地区	0	×
肝付町地域創生戦略での位置づけ		基本目標		肝付町にしごとをつくり安心して働けるようにする					
				時代に合った地域づくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する					
		具体的施策		エネルギーの地産地消への取組の推進					
				豊かな農林水産資源の再利用によるバイオマス活用の可能性の検討					
				大隅半島スマート半島構想の策定					
						買い物弱者解消のための高齢者向けインターネット利用の促進			
担当課における評価					評価委員による意見				
事業計画の作成やマーケティング調査をする中で、調達や販売先がすでに決まっており、会社設立は厳しい状況であったが、設立する会社を協力会社の取次店としてスタートすることで、予定どおり会社設立が出来た。また、地域新電力事業というものが住民にわかりづらいものであったため、説明会への出席率が低かったが、数回の広報紙での周知や議会説明をしたことで、少しずつではあるが新電力会社の知名度も上がってきている。					光の敷設を終え、エネルギーの地産地消の発想のもと、町内の基幹産業である第1次産業にどう活用していくのか今後の課題ではないか。また、風力・バイオマス発電のさらなる導入も必要である。 標記の事業の実施により、光とエネルギーによる地域資源の活用が見いだされたので、今後、地域の企業や近隣市町との連携及び電力事業の堅実な運営はKPIの達成のために不可欠ではないか。				